

科目名	地理学概論			英文表記	Geography		2010年 4月1日
教員名： 木村和雄							修正
対象学科	学年	必・選	履修・学 修	単位数	授業形態	授業期間	
全学科	3	必	履修	2	講義	通年	
目 標	1. 現代社会を構築してきた人々の活動を地理的に把握する。2. 社会の土台となる空間の多様なとらえ方とその利用・改変のメカニズムを理解する。3. それらの学習を通じて、各自のライフコースと地域選択をイメージできるようにする。						
高 専 目 標	1	2	3	4	JABEE プログラム名称		
		○	○	◎	JABEE プログラム教育目標		
授業概要、 方針、 履修上の注意	授業は講義形式で行う。講義は1)地圏環境と空間利用、2)人口の分布、構造と変化、3)産業立地の、3テーマに分けて進める。それぞれについて、情報を収集し解釈・表現するためのレポートを課するとともに、知識や能力の定着をテストで評価する。						
評 価 方 法	上記の3テーマごとに課すレポートとテストとを、それぞれ1:2の割合で評価する。						
教科書・教材	主な教材は教員が編集・作成したプリントおよびプレゼン資料である。また下欄に示すように電子情報を用いるのでPCも携行すること。さらに補助教材として地図帳（新たに購入したもので、中学校でつかっていたもので良い）も持参すること。						
参 考 図 書	「地理統計」帝国書院、「データブックオブザワールド」二宮書店、「ジオグラフィー入門」古今書院、「身近な環境を調べる」古今書院、「身近な地域を調べる」古今書院など。また、各種環境資料（国土地理院 http://www.gsi.go.jp 、気象庁 http://www.jma.go.jp 、理科年表 http://www.rikanenpyo.jp など）、各種統計情報（国連統計部 http://unstats.un.org 、総務省統計局 http://www.stat.go.jp や各自治体・業界団体等のHP）など、信頼のおける電子情報も活用できる。						
授 業 計 画							
授 業 項 目		時 間	授 業 内 容				
1. 系統地理学への招待		2	授業の進め方と対象について概説する。				
2. 地圏環境と空間利用 1		4	気候や土壌のような、地球規模の成帯性が空間利用と密接に関係している自然環境について学ぶ。				
3. 地圏環境と空間利用 2		4	地形や水文のような、身近な生活空間と密接に関係している自然環境について学ぶ。				
4. 地圏環境と空間利用 3		4	地圏環境と人類の空間利用の関係性をまとめる。				
5. テストと解説		2	地圏環境と空間利用に関するテストを行う。				
6. 人口の分布、構造と変化 1		4	世界の人口について概観する。				
7. 人口の分布、構造と変化 2		4	人口移動とそのメカニズムについて学ぶ。				
8. 人口の分布、構造と変化 3		4	現代日本の人口について学ぶ。				
9. 人口の分布、構造と変化 4		4	人口密集地としての集落・都市について学ぶ。				
10. 人口の分布、構造と変化 5		4	都市の地域構造とその変容について学ぶ。				
11. テストと解説		2	人口と都市に関するテストを行う。				
12. 産業立地 1		4	産業立地論の基礎を学ぶ。				
13. 産業立地 2		4	第1次産業の分布と分化の歴史を学ぶ。				
14. 産業立地 3		8	工業立地の歴史と傾向を学ぶ。				
15. テストと解説		2	産業立地に関するテストを行う。				
学習時間合計		60	実時間			50	